

書く！描く！撮る！子どもたちが作るローカルマガジン

こどもローカルマガジン
COLOMAGA project
コロマガプロジェクト 沼津 内浦・西浦

Vol.2
2021

TAKE FREE



こどもローカルマガジン
COLOMAGA
コロマガプロジェクト
沼津 内浦・西浦 project

特集 地域の自然の象徴

淡島

地域の産業
みかんの収穫 / マダイの沖出し

地域の歴史・文化
北条水軍の城跡

地域で活躍する移住者
さんぺーちゃん

地域を支える 食う寝る遊ぶ
松月 / 西浦荘 / 海あそび

地域の台所 うずわみそ



沼津市・内浦&西浦の子どもたちがつくる地域の情報誌

うらっち 2021 vol.2

2022年1月発行 発行人 コロマガプロジェクト沼津内浦西浦制作運営協議会
〒410-0234 静岡県沼津市西浦平沢25-8 らららサンビーチ内 平沢マリンセンター



2021 / vol.2

表紙タイトル・題字 / 奈央
表紙イラスト / 柚稀 裏表紙イラスト / 柚稀
うらっち Vol.2 メンバー

04 | **特集** 地域の自然の象徴 **淡島**

06 | 地域の産業 **農業** みかんの収穫

07 | 地域の産業 **漁業** マダイの沖出し

08 | 地域の歴史・文化 北条水軍の城跡

09 | 地域で活躍する移住者 **さんぺーちゃん**

10 | 地域を支える 食う 寝る 遊ぶ
松月 / 西浦荘 / 海あそび

12 | **Column** 地域の台所 「うずわみそ」

13 | 内浦・西浦 MAP
本誌発行に寄せて 沼津市立長井崎小中一貫学校 校長 窪田 由貴子

14 | 編集後記

15 | COLOMAGA Project の活動について



コロマガは「ESD」の実践活動

2013年度に産声をあげたコロマガは、子どもたちがこの制作を通して地域に愛着や誇りをもち「持続可能な社会を創りたい」という気持ちを育てられる実践的な活動と言えます。この「持続可能な社会の創り手を育てる教育」がESD(Education for Sustainable Development)と呼ばれているものです。同じ頃、2015年国連サミットで世界のリーダーが集まって2030年までの目標を定めました。これがSDGs(Sustainable Development Goals)といわれる17の目標と169のターゲットからなるものです。今、世界中でこの目標を達成するために産・官・民・学のあらゆる機関を上げて取り組んでいます。そしてこのSDGsを達成するためのエンジンがESDであるといわれています。

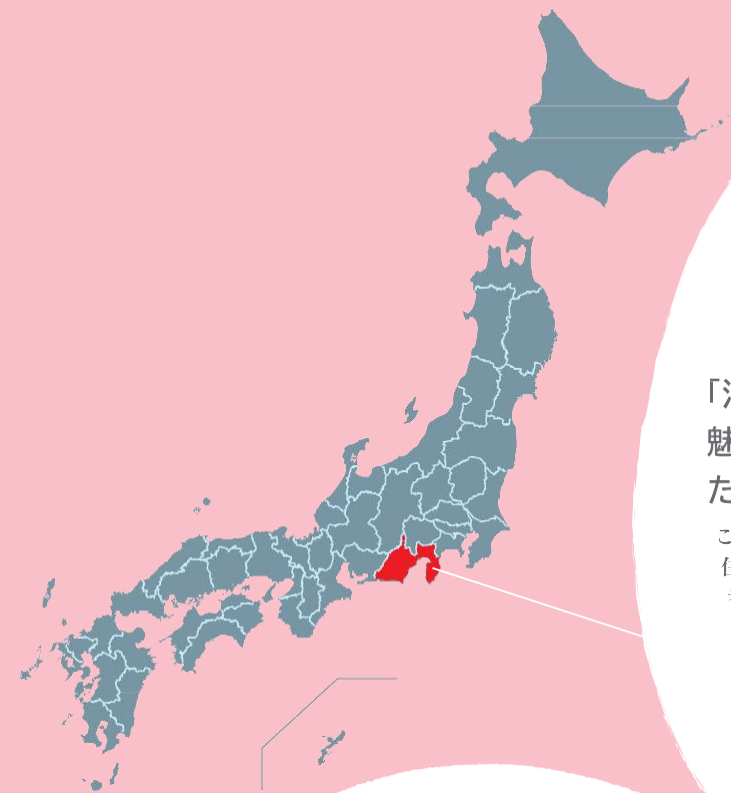
子どもたちの未来のためにみんなでコロマガの取り組みを応援してください。

ESD-J 理事 大塚明

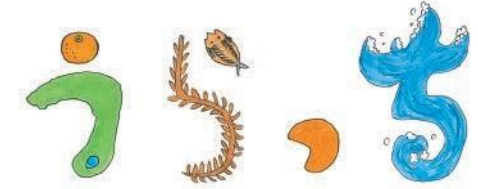
うらっちの詳しい活動についてはこちら
<https://www.hirasawa-mc.com/colomaga/>



facebook やってます!
<https://www.facebook.com/uracchi.uchiura.nishiura/>



COLOMAGA Project 沼津内浦西浦版



「沼津市の南部に位置する内浦と西浦の魅力たっぷりのコトやモノを見つけて伝えたい」をコンセプトに活動しています。

この冊子は、沼津市内浦と西浦の子どもたちが、自分たちの住んでいるまちを大人たちと一緒に調べて、見て、聞いて、考えて、地域の魅力を地域内外の方々にしっかり伝えるように伝えよう!! という想いをベースに、クリエイターとのコラボレーションでつくった沼津市内浦&西浦の情報誌です。この情報誌の名前である『うらっち』とは、内浦と西浦の「浦(うら)」の字を引用、「っち」は「仲間」や「家」の意味で、内浦と西浦全体を私たちの家と見立て、地域が一家のように一丸となり、仲間同士手を携えながら、当プロジェクトを推進していこうという気持ちが込められております。

こどもローカルマガジン
COLOMAGA
コロマガプロジェクト project

わたしたちは、
このコロマガプロジェクトを通して
こんな社会を実現していきたいと
思っています。

『うらっち』では、一緒に情報誌をつくってくれる内浦・西浦地区在住の小学校4年生から中学校3年生までの子どもで、文章を書いたり、イラストを描いたり、写真を撮ったりすることに興味のある子を募集しております!! 一緒にやりたい子は、制作運営協議会事務局(平沢マリンセンター)までご連絡下さい。

TEL 055-942-2646

Eメール info@hirasawa-mc.com

ふるさとの良いところを知って自慢できる子どもたちが増えること

ふるさとに住みたい、ふるさとして働きたいと思う子どもたちが増えること

ひとりでも多く自己肯定感が高い子どもたちが増えること

子どもたちの創造性・独創性を育み活かす機会が増えること

「デザインの力」を理解できる子どもたちが増えること

地域コミュニティに関心を持つ大人と子どもたちが増えること

大人と子どもと一緒に何かを創り出す関係が増えること

こんなことが増えれば、日本の未来はとてもしゃん!



これが獅子岩!



海を覗くと魚がたくさん!

≡ 特集 ≡ 地域の自然の象徴

淡島



写真/かの・ちふゆ イラスト/侑希・野衣 サポート/琴音

Awashima

淡島には豊かな自然と、人々に関係する歴史や文化のエピソード、そして楽しい水族館もあって、とにかく内容が盛りだくさん。とても小さいのにすごい島です。

(うらっち編集部)

8月上旬の暑い日に、僕たちは白井先生と一緒に船で淡島に渡りました。淡島に着いてすぐ海を覗くと、アイゴ・ソラスズメダイ・オヤビッチャ・メジナ・アオリイカなどが群れて泳いでいるのが見えました。

そして淡島の周りを歩きました。途中のトンネルは綺麗にライトが飾られています。水族館にはペンギンのプールがあり、ケープペンギンが泳いでいました。ペンギンの種類は世界で18種類いるそうです。僕はかわいいな、としばらく見とれました。トンネルのそばには蜂の巣のような六角形の柱のような岩が、きれいに密集している「柱状節理」がありました。そして、島の反対側には横から見るとカッコいい獅子の横顔に見える大きな岩「獅子岩」がありました。波の力で削られたその岩は、海面の高さより3mほど高いところにあります。今から6000年前の縄文時代に海面が上昇したためだそうです。また、淡島の近くの海では昔マグロが獲れたそうです。マグロが湾に入ったことが分かる「ローファー」というスピーカーのようなものを使い、岸にいる仲間に知らせ網でマグロを獲っていました。今は獲り過ぎたせいでマグロがいなくなってしまったのかもしれない。また獲れるようになると思います。淡島は元は岩の島で、その木が葉を

時代と共に失われつつある自然。しかし淡島は昔とあまり変わらない自然の豊かさが残っています。また驚いたことに小さな島にも大昔には人が生活していたという痕跡がありました。(うらっち編集部)

僕が一番驚いたのは、淡島は岩でできているということ。また以前行った時にはよく観察していなかった小さい自然についてですが、海にはクロフジツボやウミネコがいます。地上では森の木が生い茂っていて、淡島にはじつにたくさんの自然があります。

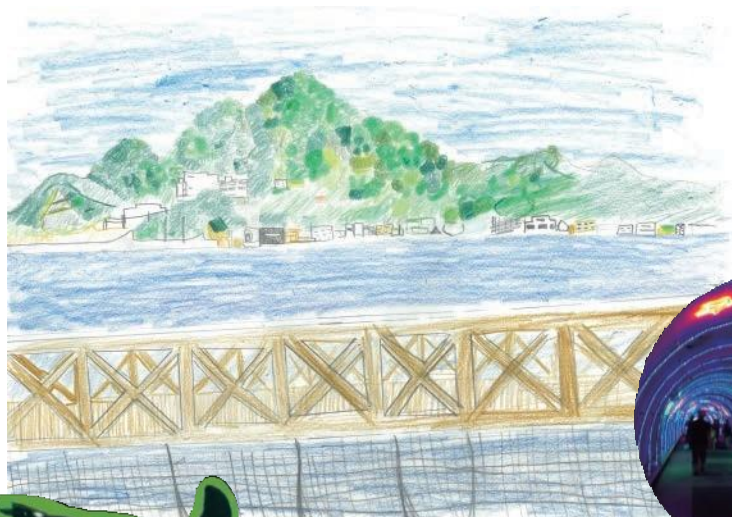
ただ困った点もあります。淡島は岩でできていますので、木がもつと生い茂り、岩のすき間などに生えてしまうと、根はやがてだんだん伸び太くなります。その力は岩を割ってしまうほどです。それにより未来には木が生い茂る代わりに、淡島がへこんでしまう可能性があるのです。さらに驚いた点は、淡島には遺跡が2つもあるのです。そのうちの1つ、淡島岩陰遺跡では石の斧の刃の部分が見つかっていて、すごいと思いました。

淡島のある内浦が今も自然に恵まれていることをうれしく思います。これからもこの自然を守っていききたいと思います。

(義生)



木々...



船に乗って行くよ!



落として葉が朽ちて土になり、今の淡島の地形になったのだそうです。淡島は歴史も自然も教えてくれる「すごい島」でした。

(宗介)



あわしまマリンパーク元館長・現顧問 静岡県環境学習指導員 沼津市文化財保護審議会委員 白井芳弘さん

淡島の自然と歴史

淡島は海底でマグマが固まり生まれました。岩だらけの島に木々が茂ると落ち葉が土をつくり水をため込みます。岩の島から生命が宿る森の島になりました。淡島の海岸は開発から逃れたため、縄文時代に波で削られた海岸の跡が残っています。また、お城の石垣に用いる石を切り出した跡や、潜水艦を発射した棧橋が戦争遺跡として残り、さらに島の周りには、サンゴの群生がありマグロが回遊する海でもありました。淡島をめぐる沼津の歴史と自然が見えてきます。

[あわしまマリンパーク]
沼津市内浦重寺 186
TEL 055-941-3126
http://www.marinepark.jp/

マダイの沖出し

マダイ稚魚の中間育成

写真 / 宗介・轟希 イラスト / 奏太郎・新 サポート / 柚稀

マダイ稚魚の沖出し（放流）…。なかなか、聞き慣れないフレーズですが、マダイを赤ちゃんからわざわざ育てたのに、なぜ放流?? 漁師のお仕事でもあまり知られていない部分を取材してきました。漁業も豊かな海があってこそのがよくわかりました。



7月の中旬、西浦江梨の沖にあるマダイの養殖の現場を取材しました。自分たちが住んでいる西浦は、自然が豊かで、夏には海で気軽に泳ぐこともよくありますが、養殖とその内容などは全く知りませんでした。港に着くと早速、ライフジャケットを着て船に乗りました。しばらく船で移動すると、マダイの養殖を行っているイケスに着きました。イケスは予想以上に大きく、そこにはたくさんマダイの稚魚たちの泳ぐ姿がありました。その数はなんと約27万匹だそうです!!

ところで、マダイの稚魚にはペレットという粉のようなエサをあげています。エサやりの体験をしながら、27万匹となるとエサもものすごい量になるだろうなと思い、漁師さんに聞いてみると、なんと一日に40kgと、私たちの体重以上の量で、かなり驚きました。エサ代にはとても費用がかかるのですが、それでもまず育てることが大事なのだそうです。



いろいろな話を聞いていくと面白いことがわかりました。育てたマダイは、そこで大きくして売るのはではなく、まだやや小さいうちに海に放流します。稚魚が27万匹いても全てがより育つとは限らないし、エサもたくさん必要になります。でもなぜ売らないのでしょうか。それは直接お金を稼ぐためではなく、豊かな海を育てることがまず大切だからなのです。

近年、海では魚が減っているらしく、特にマダイの数はかなり少ないようです。漁場としての海の環境を良くするためにこの方法が始まりました。自分の利益になるのかわからないことに、これだけ情熱をかけているのは、とにかく海という自然の豊かさがとても大事だからなのでしょう。



真正丸 船長 小林大介さん



夏の暑い日の取材でした。子供達がこれほどまで、海や魚に対して興味を持ってくれると思いませんでした。嬉しく思いました。普段何気なく仕事をしていて、子供達目線から気付かされる事も多かったです。将来、海にマダイが溢れて、未来の漁師が楽しめるように、がんばっていききたいと思えた日でした。

みかんの収穫

写真 / 愛海・沙苗 イラスト / 柚稀・ちふゆ サポート / 叶渚

西浦みかんは沼津市を代表する特産品。しかし地元に住んでいても、西浦みかんについて知らないことばかり。今回は主に西浦みかんの歴史や品種、みかん栽培の今について知り、収穫を体験、採りたての西浦みかんをその場で食べてみました。そしてこれからの西浦みかんについてみんなで考えてみました。



まだ暑さの残る10月半ばの日曜日、私たち取材メンバーは西浦久連のみかん畑へ取材に行きました。そこでみかん農家の矢岸さんに話を聞きました。西浦では明治時代頃からみかんの栽培が始まり、戦後の昭和30〜40年頃にピークを迎えました。その頃は、生産量も消費量もかなり多かったのですが、昭和47年にみかんの大暴落が起き、生産量も消費量もかなり減ってしまいました。その後西浦では、山田寿太郎さんが突然変異のみかんを発見し、昭和59年に「寿太郎みかん」※が品種登録され西浦で栽培が始まりました。現在は「寿太郎みかん」と「ゆら」の2つの品種が中心に栽培されています。この2つの品種は西浦の畑が北向きであるという条件に合っているため、品質の良い実が収穫できます。今回取材中に、「ゆら」の収穫を体験させていただきました。採ったみかんをその場で食べてみるとじつに甘く、とても美味しかったです。しかし、そんなみかん栽培の将来は農家さんの高齢化や、建物・機械の老朽化

みかん収穫の取材と体験の後、採ったみかんを使ったノンアルコールカクテルづくりにチャレンジしました。



JA なんすん西浦柑橘出荷部会 部会長 矢岸正敏さん

私は西浦久連のみかんづくり専業農家の矢岸正敏です。10月10日の午後、長井崎小中一貫学校の4年生から8年生の子供7人と付き添いの大人2人が、みかんの話を聞きに来ました。みかん畑で収穫体験をしてもらった後は、採ったみかんを食べながら、西浦みかんの歴史の話をしました。好奇心旺盛な子供たちの数々の質問に答えながらのあっという間の1時間。久しぶりに子供たちと過ごせて楽しかったです。

により、あまり明るくはありません。だからこそ、私たちの世代がこの地域の特長であるみかん栽培を守り、未来を見据え、繋げていかなければならないと思います。

※寿太郎みかんの正式名称は「西浦みかん寿太郎」です。

(奈央)



地域で活躍する移住者

さんぺーちゃん

写真 / 来晏・沙苗 イラスト / 春人・和花

さんぺーちゃんはここで自転車を貸したり修理をしたり、自転車で内浦・西浦に来る人の案内などをしています。中学生の時には水泳をやっていたのですが、手をケガしてしまい、その時、先生に自転車をすすめられました。それから自転車をずっと乗り続けているのだそうです。

得意な自転車の修理は今まで5000台くらいやったそうで、それにはとてもびっくらしました。千葉県館山市出身のさんぺーちゃんは、東京での生活の後、沼津

地域おこし協力隊として活躍しながら、自転車のスペシャリストとして週の半分は、NUMAZU サイクルステーション静岡東に勤めている、移住者で西浦在住のさんぺーちゃん。なぜ自転車なのか？なぜ沼津に移住してきたのか？気になる二つの疑問を中心にいろいろ話を聞いてきました。

(うらっち編集部)



出身の友人から話を聞いていた沼津に興味を持ち、西浦に移住してきました。さんぺーちゃんは沼津の良さをたくさん知っていて、私たちにいろいろ教えてくれました。その中で印象的だったのは、東京の夜は騒々しいのに対し、沼津の夜は静かで心と体が休まるし、地域住民の人情が良いという点です。

さんぺーちゃんはこれからも沼津で自転車に携わりながら、のんびり過ごしていきたいそうです。

(かの・野衣)

沼津市地域おこし協力隊
南沼津サイクリング
https://twitter.com/MinamiNumazu_c
三平浩輔さん

北条水軍の城跡

写真 / 沙苗・愛海 イラスト / 春人・侑希 サポート / ひなた

長浜城は国指定史跡になったスゴイ城。そんなお城の秘密とは……。 (侑希)



日差しが強い真夏の日曜日。私たちうらっち取材チームは、内浦にある長浜城跡を訪れ、沼津市文化財センターの学芸員である谷口先生に詳しいお話をうかがいました。

城という天守閣や堀のあるような城を想像する人が多いと思います。しかし全国でもそのような城は1パーセント程度であり、ほとんどは長浜城のような山城が多いのです。長浜城は戦国時代、北条水軍の軍事拠点となり、その後は漁のための「魚見台」として利用されるようになりました。現在は国指定史跡となっています。

この長浜城は珍しく「虎口(こぐち)」という城郭における出入口や跳ね橋という可動式の橋が設けられていたそうです。まさに戦のためのつくりをした城だということがわかりますね。

そして第二曲輪は、一番広く建物などがあり、山からの敵を防ぐために南側が山で高く北側が海という、敵に攻め込まれにくいという地理的利点がありました。

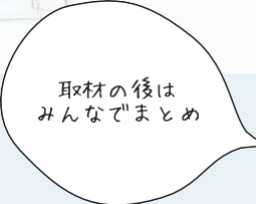
北条水軍は主に地元の漁師たちで構成され、いざ戦になると水軍となり戦場に出たっていったそうです。もしかしたら私たちうらっちメンバーのご先祖様たちも北条水軍の一員だったかもしれませんね。

(奈央)



沼津市教育委員会事務局 文化振興課
学芸員
谷口哲也さん

長浜城は、戦国時代に築かれ、この地域を治めた北条氏の水軍の基地でした。その後、長浜城は地元土豪の大川氏らが中心となって利用してきました。当時、水軍として関わっていた人々の子孫は今もこの地域に暮らし、しかもその時の城が400年以上を経て残っています。まさに、内浦の宝といえるのではないのでしょうか。





地域を支える 食・寝る・遊ぶ



西浦の海あそびの達人
渡辺駿太郎さん



民宿 西浦荘・女将
松井めぐみさん



松月・パティシエ
瀬川公伸さん

食う

和洋菓子 松月

写真 / 叶渚・夏海 イラスト / 愛海・琴音

私たちが住んでいる地域には、昭和10年から今も続いている、こんな素敵な和洋菓子屋さんがあります。多くのお客様のことを考え、地域との関係を大切に、このお店の工夫とは？

6月の終わり、私たち「うらっち」のメンバー9人で「松月（しょうげつ）」という和洋菓子のお店を訪ねました。内浦・西浦で数少ない和洋菓子屋さんの松月は、内浦三津の道路沿いにあります。

この松月を訪ねてまず目に入ったのは、飲食スペースの一角に設けられた「ラブライブ！サンシャイン!!」のコーナーです。そのコーナーにはグッズや交流ノートが置かれていました。この交流ノートは、お客様の声、お客様同士との交流を大切にしようというお店の考えで置かれているそうです。

このお店の一番人気のお菓子は、みかんどら焼で、一番売れる秘密があるそうです。それは地域ならではの名産「寿太郎みかん」を使用しているということで、特に「ラブライブ！サンシャイン!!」のファンの人々には大人気だそうです。



[和洋菓子 松月]
沼津市内浦三津 88-36
TEL 055-943-2104



(かの)



を大切にしていることがわかりました。自分たちの住むまちの魅力の1つが、この松月であることが再発見できました。

寝る

民宿 西浦荘

写真 / 知乃子・嘉希 イラスト / 琴音・ちふゆ サポート / 来晏

観光産業が盛んで、民宿や旅館が多い内浦・西浦。その中の一つ、西浦荘を訪ねました。お客様が楽しめるよう、いつも笑顔で出迎えてくれる女将さん。西浦荘さんについて取材してきました。

6月最後の日曜日、私たちは西浦荘という民宿を訪ねました。西浦荘の魅力と言ったらまずは、大広間から見える大海原。じつにきれいで壮大です。そしてこの時期でも、海に海藻もたくさん見えます。この海藻は全てひじき。このひじきを茹でて調理したものをお客さんに出しています。ここでは地元の名産を味わうことができます。

西浦荘の魅力は、海や料理だけではなく、女将さんの魅力の1つです。この女将さんはどんな人でもすぐ打ち解けてしまいうような人柄で、お客様のことをとても大事にしています。海がよく見えるように大きな窓をいつもきれいにし、とても丁寧に部屋の掃除をしたり、お客様が安心して過ごせるようにしっかり準備をしています。



[民宿 西浦荘]
沼津市西浦平沢 254-5
TEL 055-942-2229
<http://www.mjnet.ne.jp/nishiuraso/index.php>



(侑希)

常連さんもいます。じつはレオ君は猫なのですが、猫も居心地が良いと思ってしまう程の優しい女将さんです。

お客様が再度、西浦荘に泊まりに来る理由は、壮大な海の景色を見たいからだけではなく、優しい女将さんのいつも絶やさなない笑顔を見たいからなのでしょう。



遊ぶ

海あそび

写真 / 知乃子・嘉希 イラスト / 奏太朗・叶渚 サポート / 夏海

地域が誇る海は、私たちのあそび場です。磯へ行けば小さな魚たちが、海を泳げば色とりどりのサンゴが、透き通る青く広い未知の世界は、いつも私たちの近くにありまます。そんな身近な海の磯にはどんな生き物が生息しているのでしょうか。私たちは今回、ある先生を取材しました。

10月になり風も涼しく、本格的な秋が近くなってきたことが実感できる取材には絶好の日、西浦生まれの西浦育ちである海あそびの達人、渡辺駿太郎さんに海あそび（磯あそび）を伝授していただきました。磯辺の生き物を探したり、海の中をのぞいたりして、様々な生き物を見つけてきました。磯辺の石のすき間には小さな巻貝などがたくさんいました。海をじっと見ていると、青く小さなソラスズメダイや、時折大きな魚が泳いでくることがあり、とても楽しかったです。悠々と泳ぐ姿がとても可愛らしいと思いました。

磯辺で生き物を探していると、大きなヤドカリを見つけました。お湯の入った鍋にラップをし、その上にヤドカリを乗せると、貝の中からヤドカリがゆっくり出てきました。先生の説明や生き物との触れ合いで、知識が増えました。



(柚穂)

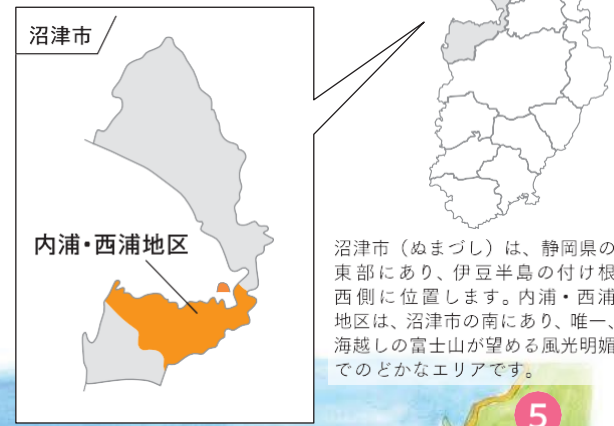
いつも見ていた磯辺や海でも知らなかったことや新しい発見がたくさんありました。私たちの日常にある海は、私たちが思っていたよりもはるかに興味深く、日々表情を変える身近な遊び場です。見て、触れて、学べる、この豊かな海と地域を持續し、より多くの人が海で学べる楽しい遊び場を残していきたいです。

1つまた1つと表情を変え続ける海は、私たちの第二の学校になりました。ふだんの授業とは違う魅力や体験がすぐそこにあります。今度はどんなことが学べるのか、とても楽しみです。

内浦・西浦 MAP

イラスト・地図製作 / 奈央

- 1 淡島 P4
- 2 みかん畑 P6
- 3 マダイの沖出し P7
- 4 北条水軍の城跡(長浜城跡) P8
- 5 NUMAZUサイクルステーション静浦東 P9
- 6 和洋菓子 松月 P10
- 7 民宿 西浦荘 P11
- 8 海あそび P11
- 9 うずわみそ P12



子どもローカルマガジン「うらっち」2021年度版の発行おめでとうございます。

今年はメンバーも増え、加えて昨年の経験者も残っていることで、第1号もさることながらこの第2号は、内浦・西浦の魅力がたっぷり伝わる興味深い情報誌に仕上がっていることでしょう。2月の完成披露発表会が、とても楽しみです。

さて、本校の高台から眺望する風景は、まさに一幅の絵のごとくであります。四方は季節を告げるみかん畑、眼下には波静かに広がる駿河湾、隔てて正面に朝な夕なに霊峰富士を拝める環境。初めて訪れる来校者は、必ず足を止め、この絶景に見入ります。

環境が人を育てると言いますが、この校区の豊かな自然と、人情厚い地域の人との関わりの中で育まれてきた本校の子どもたちも、魅力が満載です。素直で純真、まじめに物事に取り組み、また親切でやさしい気質をもっています。この子どもたちが、学校にとってかけがえのない存在であることは間違いありませんが、地域にとっても、大切な存在であると感じています。

それ故この子どもたちが将来、大好きなふるさと「内浦、西浦、長井崎」での学びに誇りをもち、困難に負けず自分

本誌発行に寄せて



沼津市立長井崎小中一貫学校 校長
窪田 由貴子

の人生を切り拓く力を育みたいのです。更には、地域や社会に貢献している姿を思い描きたいです。そのために、自分の良さを発揮して、仲間と共に学ぶ、伸びる、小中一貫教育を推進中です。

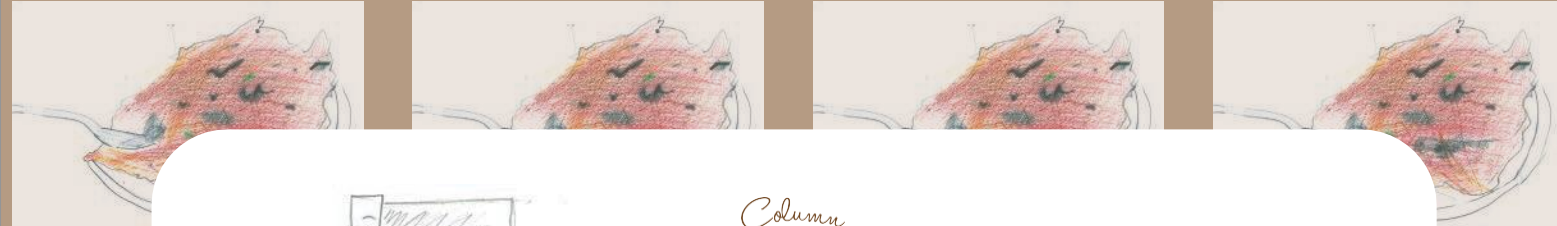
ただ、この力は学校の中だけで育めるものではありません。多様な人々との関わり、多様な経験を重ねていく必要があります。

そういった意味で、この「うらっち」の制作は大変素晴らしい価値ある活動だと思えます。

「うらっち」のメンバーが、体験や取材を通してこの地域の魅力を再発見したことをはじめとし、世代を超えた様々な方との出会いが、もの見方や考え方を広げることにつながったでしょうし、編集では、自分らしさを表現できる楽しさも味わえたでしょう。そして、制作を支えて下さっている地域を愛するスタッフさんたちと一緒に活動できたことも、貴重な経験だったと思います。

きっと、完成披露発表会では、それぞれが感じた地域の魅力を、自分の良さや役割に気づいたメンバーが、自信をもって発表してくれることでしょう。

たくさんの人に「うらっち2021年度版」を手にとってもらえるよう、応援します！



Column

地域の台所

Uchiura & Nishiura's Kitchen

うずわみそ



元寿司職人 内浦長浜在住 土佐谷博一さん

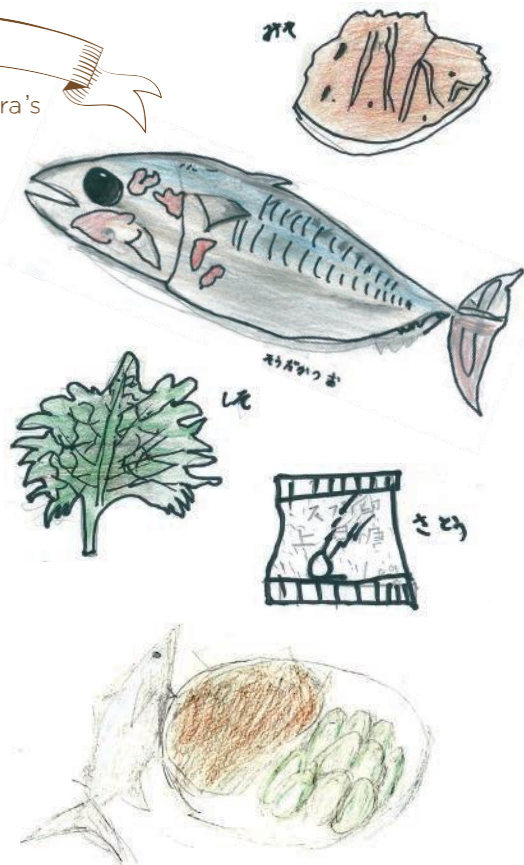


写真 / 宗介・来葉
イラスト / 奏太郎・新・ひなた

ここ内浦の郷土食である、うずわみその原料となる宗田(そうだ)がつおは、「ひら宗田」と「まる宗田」の2種類に分けられます。内浦では、ひら宗田を「しぶわ」、まる宗田を「うずわ」と呼び、うずわみそは「うずわ」を使います。

10円であめ玉が4個買えた時代に、「うずわ」はたくさん獲れたそうです。たくさん獲れたから保存ができるように考えられたのが、うずわみそです。

茶色く、香ばしい良い匂いがしていました。早速うずわみそをきゅうりに付けて試食してみたらビックリ！甘くて口の中でとろけるような味で、とてもおいしかったです。

今回は短時間の調理でしたが、もっと長い時間を通すと粘り気が増し、おにぎりの具にぴったりになるのだそうです。きつと他のものとの組み合わせでも美味しいと思います。

昔は「うずわ」がたくさん獲れていたのですが、地域の家庭でもうずわみそはよく作られていたのですが、今は昔ほど獲れなくなり、あまり作られていないそうです。このままでは忘れ去られてしまうのではないかと心配です。

うずわみその作り方は、「うずわ」を3枚におろしてミンチにします。それをフライパンで炒めて、砂糖と味噌をドバッと入れます。その後しょう油を少し入れて、香りづけにシソの葉を入れます。

僕らも炒めるのを体験させてもらいました。フライパンは熱くて重く大変でしたが、土佐谷さんは、フライパンを軽々と持ち、すばやく作っていました。

出来上がったうずわみそは少し

(養生・和花)



こどもたちの創造性を育てて 地域をつなげる活動です。

創造力は生きる力。

楽しんで創ったものは社会のためになり、
 地域のつながりを強くします。



「COLOMAGA Project(コロマガプロジェクト)」は、こどもたちが自分の住む「まち」取材し、プロのクリエイターと一緒に「まち」のローカルマガジン(地域情報誌)を作るプロジェクトです。現在、東京都、静岡県、山梨県、長野県、広島県の5県7エリアの地域が参画しており、地域を超えた交流も行っています。

自分たちが住んでいる「まち」を知るためにまず、自分が興味のある人や場へ出向いて、知りたいことを取材します。つぎに、その情報を自分らしく発信するために、プロのクリエイターからノウハウを教わりながら、写真を撮ったり、イラストを描いたり、文章を書いたりしてカタチにしていきます。最後に、みんなの集めた「まち」の情報を1つの冊子にまとめることで、「COLOMAGA」が完成します。

こどもたちが世代を超えて出会う人と交わすコミュニケーションは、かけがえのない思い出や体験となります。「まち」の魅力を知れば知るほど、自分の「まち」が好きになり、自分の居場所になっていく。「まち」のために何ができるだろうと考える人が一人でも多く育って欲しい。「COLOMAGA Project」はそのような想いで活動しています。

その他の地域の COLOMAGA project



「この活動いいね」と思ってもらえたら、ぜひ応援をお願いします！

この活動は、沼津市内浦・西浦地区の有志による非営利事業です。これから継続していくためには、活動資金が必要です。ぜひ、ご寄付という形でのご支援をお願いいたします。

個人の方へ 自分の暮らす「まち」を好きになり、故郷を自慢できる子どもたちを応援するこの活動のご支援をお願いいたします。

法人の方へ この活動は、SDGsの一環であり、企業のCSRにもつながるこの活動との協同事業やご支援をお願いいたします。

ご寄付・金額の目安

個人の方 一口 2,000円/年 法人の方 一口 5,000円/年

ご寄付の振込先

南駿農業協同組合 西浦みかん支店 普通口座 0056197
 口座名義：コロマガプロジェクト沼津内浦西浦制作運営協議会
 事務局長 朝倉一哉
 連絡先：TEL 055-942-2646 MAIL info@hirasawa-mc.com
 *お振込みいただける際は、お名前と連絡先をお知らせ下さい。

ご寄付をいただきました方には、その年発行の冊子とホームページにお名前を掲載させていただきます(ご希望の方のみ)。さらに冊子の完成発表会にご招待いたします。

「うらっち」応援Tシャツプロジェクト

内浦 AJINAMICHI・西浦 JYUTAROAD
 各Tシャツ1着作成につき、200円がコロマガプロジェクト沼津内浦西浦版「うらっち」の活動への応援資金として寄付されます。



【お問合せ】

Locate (ロケイト)事務局・渡辺
 〒410-0234 沼津市西浦平沢92-4
 TEL 090-1410-8778
 MAIL locate.numazu@gmail.com

詳しくは
 コチラ



編集後記

参加してくれた COLOMAGA Project 沼津内浦西浦版「うらっち」のメンバー



講師の方たち

 フォトグラファー 浅沼 はるか	 ライター 沼津経済新聞 副編集長 ツナガルプランナー 榎 昭裕	 アートディレクター グラフィックデザイナー 大木 真実	 イラストレーター ヘレン
------------------------	--	---------------------------------------	---------------------

コロマガプロジェクト沼津内浦西浦制作運営協議会

会長 内浦地区連合自治会 会長 大越 則敬	代表 事務局長 平沢マリンセンターセンター長 伊豆半島ジオガイド協会 理事 朝倉 一哉	 みかん農家 東山農園 山田 貴久	 高正丸 船長 内浦漁業協同組合 青七中幹部 部長 小林 大介
 いけすや 店長 内浦漁業協同組合 職員 土屋 真美	 駿馬荘 やまゆ 若女将 沼津市地域おこし協力隊 隊員 渡辺 頼子	 BAR とらちゃん 店主 石津 太雅	 学校教諭 水野 靖弘

うらっち vol.2 発行に向け、ご支援ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。冊子の作成はまだ不慣れで手探りではありましたが、子どもらしくまたクリエイティブな情報誌ができました。21人の子どもたちが、「楽しかった」「ステキな冊子ができた」と感じてくれることをまず目標に。その一歩が、この地域の明るい未来に繋がると信じて、私たちは楽しく真剣にこれからも内浦西浦の子どもたちを応援していきます。(渡辺頼子)



制作：コロマガプロジェクト沼津内浦西浦制作運営協議会
 コロマガプロジェクト本部総括 浅井由剛

制作・運営協力：内浦地区連合自治会・西浦地区連合自治会
 沼津市立長井崎小中一貫学校
 南駿農業協同組合・内浦漁業協同組合・JAなんすん西浦柑橘出荷部会
 沼津市地域おこし協力隊(三平浩輔・青木恵美)
 沼津市内浦 & 西浦オリジナルTシャツ企画 Locate
 ※順不同、敬称略

デザイン：NUMAZU DESIGN CENTER 大木 真実

後援：沼津市
 沼津市教育委員会
 ESD-J(NPO 法人持続可能な開発のための教育推進会議)

取材協力：白井芳弘・矢岸正敏・真正丸・沼津市教育委員会事務局
 三平浩輔・松月・西浦荘・渡辺駿太郎・土佐谷博一
 ※順不同、敬称略

問い合わせ：コロマガプロジェクト沼津内浦西浦制作運営協議会 事務局
 〒410-0234
 静岡県沼津市西浦平沢 25-8 らららサンビーチ内
 平沢マリンセンター
 TEL 055-942-2646

ご寄付をいただきました皆様：
 内浦地区連合自治会、内浦コミュニティ推進委員会、内浦青少年を健やかに育てる会、南駿農業協同組合、山下孝弘、山崎浩、渡邊稔、渡辺宏之、沼津市内浦 AJINAMICHI & 西浦 JYUTAROAD オリジナル Tシャツをご購入下さいました方々
 ※順不同、敬称略